

# 練馬区地域福祉推進委員会

## 福祉のまちづくり部会

次期地域福祉計画の福祉のまちづくりに関する  
施策の方向性について 意見まとめ（たたき台）

令和6年7月

## ハード・ソフト両面からのユニバーサルデザインのまちづくりを推進する

### 検討にあたって区から提示された重点取組項目

- (1) 誰もが安心・快適に利用できる施設を増やす
- (2) 相互理解を促進し、誰もが社会参加しやすいまちをつくる
- (3) 誰にでも伝わる・誰もが使える情報を充実させる

### 意見まとめ

- 1 ユニバーサルデザインの考え方を浸透させ、当事者の意見を聞きながら、ハード・ソフト両面からバリアフリー整備を推進していくことが必要である。
- 2 バリアフリー設備などの適正利用についての周知を促進することが必要である。
- 3 共生社会の実現には、一人ひとりの生き方や考え方などに共感し、多様な人との違いを認め合うことが必要である。
- 4 心のバリアフリーを推進し、やさしいまちづくりのために地域の中で行動に移せるよう、幅広く人材を育成していく必要がある。
- 5 誰もが同じ情報を得られるよう、様々な情報提供・発信の手段および工夫が必要である。
- 6 様々な情報手段があることや活用環境についての周知を行い、理解を深める取組が必要である。

### 【(1) 誰もが安心・快適に利用できる施設を増やす】 ...意見まとめ1・2

- 鉄道駅のバリアフリー化では、ホームドアの整備はぜひ進めていただきたい。
- 駅は、エスカレーターやエレベーターがどこにあるかわかりづらいことがあるので、分かりやすいサインが必要。
- 駅におけるエスカレーターの使用方法については、「歩かない」ということがもっと認知されるとよいので、引き続き周知が必要。
- 光が丘駅のバリアフリー化されたルートが増え、行きたい行き方で移動ができることは良い。
- アクセスルートの取組においては、各駅からのルート整備と同様に、バス停等のアクセシビリティも検討が必要。
- アクセスルート未指定施設の早期ルート指定と計画的な整備が推進されるよう、基準の再確認あるいは見直しの検討が必要。

- アクセスルートの経路上では、休憩スペースの設置など、移動や誘導の他にも検討が必要。長く連続して歩行できない高齢者や妊婦、子ども連れなど様々な方へ配慮が必要。そのためには、民間施設等の活用などの検討も必要。
- 民間建築物においても、当事者の意見を反映できるようになるとより良い。すぐにはできないと思うので、設計者等に当事者の意見を伝えるというところからでも始められるとよい。
- 区立施設は改修の機会を捉えて、エレベーターがない施設には、エレベーターの設置を検討してほしい。
- 区立施設の改修の際は、利用者の意見を大事にして欲しい。
- 災害時等に状況を把握できるよう、区立施設における聴覚障害者の情報保障の設備等が必要。

【(2) 相互理解を促進し、誰もが社会参加しやすいまちをつくる】...意見まとめ3・4

- 障害者の社会参加などには、差別意識を感じる現実がある。ぜひ、心のバリアフリーを進めてほしい。
- 心のバリアフリーを進めていくためにも、理念「共感」の部分にあるよう、人それぞれの生き方などを、一人ひとりが共感できることが重要である。
- 大人も子どもも、一緒に共生社会づくりに加わってほしい。
- 地域講座など受講前と受講後の受講者の意識の変化を測ったり、フォローアップするとよい。
- 地域講座やユニバーサルデザイン体験教室は、web 開催やオンラインを活用した企画もあるとよい。
- ユニバーサルデザイン体験教室で学んだことを「どのように行動に移すことができるか」を考えられるようになるとうい。
- 福祉のまちづくりサポーターは属性のバランスなども大切に、継続的な確保がなされるとよい。

【(3) 誰にでも伝わる・誰もが使える情報を充実させる】...意見まとめ5・6

- 情報の入手の方法や選択する機器も様々あるので、いろいろな対応が必要。
- ろう者の場合、日本語が不得意な方もいるので、音声認識アプリの文章を見ることよりも動画があれば分かりやすいこともある。また、手話中心の場合は、手話通訳者に助けてもらいたいとも思う。手話を母語とする聞こえない人たちのために、手話通訳者の配置を充実させてほしい。

- 外国人・認知機能に障害がある方への情報保障に向け、わかりやすい表現やルビ、多言語表示など、方法は多岐に渡るので、今後の展開に期待している。
- 区が送付する通知文書の封筒の音声コードの取組については、伝え方等を工夫して、全ての視覚障害者に知ってもらえるような周知が必要。
- 情報の入手や活用においては、アプリを使用する障害者が増えているが、情報のやり取りに手間取ったり、時間がかかったりすることを許容できるような社会になるとよい。
- 高齢者が集まるイベントなどでも音声認識アプリは大変有効でないかと思う。
- デジタルの情報発信とともに、アナログの情報発信の方法も充実して欲しい。
- 区立施設の問合せ先や web 申し込み後の対応など、メールでのやりとりがスムーズにいくように改善を図ってほしい。
- やさしい日本語の「やさしさ」の基準が曖昧である。障害者等の当事者に内容や文章を確認する機会も必要。また、文章だけでなく、図やイラストを用いた説明も必要。
- 情報発信については、受託事業者にも指示や研修などをしてもらいたい。
- バリアフリーマップは、スマートフォンおよびタブレットでも活用できるような情報提供アプリがあるとよい。

**【地域福祉計画全体への意見】 推進委員会で集約します。**

(計画の考え方に関すること)

- 地域福祉が「家を出よう」「協働で一緒に何かしよう」という積極的アプローチに偏りがちになることで弊害や行き詰まりの要因になることを懸念している。地域が受け入れる、見守るという考え方を計画の中に取り入れて欲しい。
- 地域福祉計画は支援を必要とする人の計画であると思うので、積極的な支援、一歩引いた支援などを、理念の中にも取り入れられるとよい。広い意味では「共感」。生き方を一人ひとりが共感できることが重要である。

(理念に関すること)

- 理念のわかりやすい説明や事例をコラム等で計画の冒頭に掲載し、計画を読んだ人が自分事に捉えられるようになるとよい。

(人材に関すること)

- 民生委員については、様々な役割を一人ひとりが地域の中でどう関わっていくか等、民生委員の活動の選択と自由という考え方も必要。地域の理念に基づいて民生委員が活躍できるよう、活動の方向性をフレキシブルに捉えてほしい。
- 今ある社会資源をどう生かすかというテーマになる。
- 若い世代のユニバーサルデザインの認知度は高い。若い世代が大人になったときに住みやすいと感じるよう、高校生等にもできることがあるので、幅広く人材育成ということで捉えていただき、取組を進めて欲しい。

## 福祉のまちづくり部会員名簿

	区分	氏名	フリガナ	所属団体等
1	学識経験者	植田 瑞昌 (部会長)	ウエダ ミチヨ	日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科
2	学識経験者	山崎 晋 (副部会長)	ヤマザキ シン	日本大学 理工学部 まちづくり工学科
3	事業者団体	岡崎 章臣	オカザキ アキヒ	東京建築士会練馬支部
4	事業者団体	青木 伸吾	アキモ シンゴ	介護サービス事業者連絡協議会住宅改修部会
5	関係事業者	岩澤 貴顕	イワサキ タカキ	西武鉄道株式会社 鉄道本部 計画管理部 駅まち創造課長
6	関係事業者	廣元 勝志	ヒロハタ カツシ	東京地下鉄株式会社(東京メトロ) 鉄道本部 鉄道統括部 移動円滑化設備整備促進担当課長
7	関係事業者	山本 良司	ヤマモト リョウジ	東京都交通局 建設工務部 計画担当課長
8	地域活動団体	熊谷 晴美	クマガイ ハルミ	練馬区商店街連合会
9	地域活動団体	千葉 智也	チバ トモヤ	特定非営利活動法人手をつなご
10	福祉関係団体	宗形 積	ムネカタ セキ	練馬区老人クラブ連合会
11	福祉関係団体	鴨治 慎吾	カモジ シンゴ	全国頸髄損傷者連絡会 東京支部
12	福祉関係団体	的野 碩郎	マノ ヒロシ	練馬区視覚障害者福祉協会会長
13	福祉関係団体	渡邊 健	ワタナベ ケン	練馬区聴覚障害者協会
14	福祉関係団体	福山 祥平	フクヤマ ショウヘイ	練馬手をつなぐ親の会
15	福祉関係団体	轡田 英夫	ウツタ ヒデオ	特定非営利活動法人 練馬精神保健福祉会

## 福祉のまちづくり部会 開催経過

回	開催日	検討項目
第1回	令和6年6月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉計画取組状況報告について</li> <li>・地域福祉に関する国・都の動向について</li> <li>・次期練馬区地域福祉計画の策定について</li> <li>・意見交換</li> </ul> (1)次期練馬区地域福祉計画の体系(案)について (2)各施策の方向性について(案)
第2回	令和6年7月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進委員会への報告について</li> </ul>